



Title	Development of a Concise Healthy Diet Score for Cardiovascular Disease among Japanese; The Japan Collaborative Cohort Study
Author(s)	野原, 潤子
Citation	大阪大学, 2024, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/101453
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

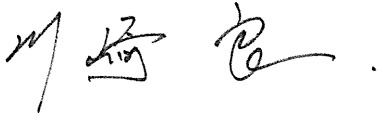
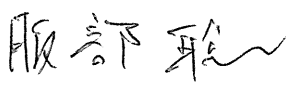
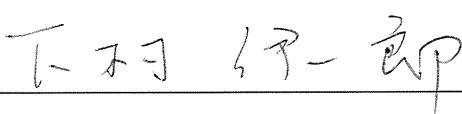
<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨
Synopsis of Thesis

氏 名 Name	野原 潤子
論文題名 Title	Development of a Concise Healthy Diet Score for Cardiovascular Disease among Japanese; The Japan Collaborative Cohort Study (日本人の心血管疾患に関する簡便な健康食事指標の開発 ; 日本共同コホート研究)
論文内容の要旨	
〔目 的(Purpose)〕 WHOの報告によると、2019年全世界の心血管疾患(CVD)死亡は、1,790万人で全死亡の32%を占めており、死亡率、罹患率、経済的負担を軽減するために、グローバルヘルスにおける重要な課題である。また、日本での死因は、2位心疾患14.8%、4位脳血管疾患6.8%とあわせて21.6%で、介護原因の19.7%でもあり、CVD予防対策は重要である。 そこで欧米諸国では、主にCVD予防を目的とした食事の質に関する複数の指標が開発されている。しかし、それらの指標は複雑で、臨床や健康増進の現場ではあまり実用的ではなく、また食習慣が異なる日本人には当てはめにくい。日本では、食事バランスガイドをもとにしたスコアが開発されているが、計算方法が非常に複雑ある。そこで、我々は、1つ目として「日本人」に当てはまること、2つ目として健診現場などで専門職や住民が行動変容の指標として使いやすく「簡潔」であること、の2つに重点を置き、日本人のための簡潔なCVD予防を目的とした食事の質スコアの開発を目指した。	
〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕 ■方法: 日本共同コホート研究であるJACC研究の対象者の中でCVDおよびがんを患っていない23,115人の男性および35,557人の女性を解析対象に、35種類の食品を対象とした自己記入式食物頻度調査票を用いて、鮮魚週3回以上摂取、果物類1日1回以上摂取、野菜1日2回以上摂取、大豆製品週3回以上摂取、高食塩食品摂取2点以下、の5項目の遵守を各1点(○1点、×0点)とした、0-5点の範囲の日本人のための簡潔なCVD予防を目的とした食事の質スコア(cHDS)を開発し、cHDSと全死因死亡および死因別死亡リスクとの関連性を調査した。 ■結果: 中央値19.2年の追跡期間中、6,291人の男性および5,365人の女性が死亡した。 最も高い群(5ポイント)と最も低い群(0-1ポイント)を比較した多変量ハザード比(95%信頼区間)は、男性では、心血管疾患で0.74(0.60-0.91、P-trend=0.008)、全死因で0.86(0.77-0.95、P-trend=0.05)で有意な関連が認められたが、脳卒中、冠動脈性心疾患、その他の原因による死亡との有意な関連は認められなかった。 女性では、心血管疾患で0.65(0.52-0.81、P-trend<0.001)、脳卒中で0.63(0.45-0.88、P-trend<0.001)、冠動脈性心疾患で0.48(0.30-0.78、P-trend=0.008)、その他の原因では0.67(0.54-0.84、P-trend<0.001)、全死因では0.75(0.66-0.85、P-trend<0.001)で、いずれも有意な関連が認められた。	
〔総 括(Conclusion)〕 我々は、日本人集団において、日本人のための簡潔なCVD予防を目的とした食事の質スコア(cHDS)を開発し、男女ともにCVDおよび全死因死亡との負の関連性を明らかにした。加えて女性においては、脳卒中、冠動脈性心疾患、その他の原因による死亡との負の関連性も認められた。 本スコアについて、今後健診などの臨床や健康増進の現場で実践的に活用していきたいと考えている。	

論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名)			
野原 潤子			
論文審査担当者	(職)	氏 名	
	主 査	大阪大学教授	 署 名
	副 査	大阪大学教授	 署 名
	副 査	大阪大学教授	 署 名
論文審査の結果の要旨 循環器疾患の発症予防において、日々の食生活の影響は大きく、種々の疫学研究によって得られた結果をもとに「食事の質」に関する指標が開発されている。一方、これまでに報告がある指標は食事という文化的背景の影響を大きく受けるものであるため海外のものと日本に合わせたものが必要であるという指摘、また、複雑すぎると予防を目的とした行動変容の文脈では使いにくいといった課題があった。今回の研究はそのような課題に対して、全国の複数地域を場としたコホートJACC研究の食物頻度調査結果から、新たな食事の質のスコアの作成を行い、その後に、循環器疾患死亡をはじめとする種々の死因別死亡リスクとの関連を明らかにした。その結果、鮮魚週3回以上摂取、果物類 1 日 1 回以上摂取、野菜 1 日2回以上摂取、大豆製品週3回以上摂取、高食塩食品摂取2点以下、の5項目の遵守からなる5点満点のスコアConcise Health Diet Score (cHDS)を開発し、男性では5点、女性であれば4点以上で循環器死亡、全死亡のリスクが低いことを持ってその妥当性を検証した。食品別の関連では捉えにくい食事全体の影響をスコア化して、かつ、明確な目標として提示できる簡便なスコアを日本人向けに開発し、循環器死亡と全死亡について長期追跡コホートで検証した例は他になく、以上より、本論文は学位に値するものと考えられる。			